

共通テスト対策完全版、出願と共通テスト 利用入試～医学部予備校エースアカデ ミー

▽共通テストの出願

共通テストの出願期間は下記の通りです。(必ず公式HP等にて各自確認してください。)

出願期間……………9月16日から10月3日まで(各自で要確認)

本試験……………1月17日, 18日

(追試験……………1月24日, 25日)

共通テスト公式HP

<https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/index.html>

* 重要: 各自で共通テストの出願を行ってください。

* 共通テストの出願方法等に関する相談は原則として各自で大学入試センターへ確認を行ってください。

* 重要: 私立医学部専願者も、必ず共通テストの出願を行ってください。

共通テスト本番での試験の解き方の反省を活かして私立医学部に合格した卒業生は例年多くいます。

共通テスト本番は、私立医学部受験に向けて一番の練習になりますので必ず受験をしてください。

▽私立医学部の共通テスト利用入試について

▽重要: 私立医学部の推奨校(12月初旬に個別でお伝えします)は、共通テスト利用入試の併願を強く推奨します。

一般入試ではすべて不合格だったものの、共通テスト利用入試のおかげで医学部に進学できた卒業生は例年少なくありません。

▽共通テスト利用入試を実施する医学部

(昨年度の資料→今年度のものは後日掲載予定)

<https://aceacademy.jp/wp-content/uploads/2017/11/bf6130150767d788649497bd54ff786f.pdf>

▽おすすめの私立医学部の共通テスト利用入試の大学、よくある質問への回答

・私立医学部専願の人は、国社情報の受験も必要な共通テスト利用入試の受験はあまり推奨しません。英数理のみ(+現代文のみ)で受験可能な共通テスト利用入試の受験を推奨します。

・特に受験を推奨する共通テスト利用入試:現代文以外の国語や社会情報が不要で、募集人数が多めの大学

・「共通テストボーダー資料」のボーダー得点率は実際の合格点より高めにでています。例年、資料のボーダー得点率よりも2-3%低くて実際に合格した卒業生が複数います(大学にもよります)。

・多くの共通テスト利用入試でリスニングの受験が必要であるため、共通テストではリスニングも受験を行ってください。

また一部の大学では現代文の受験が必要なので、希望者は現代文も受験してください。

・私立医学部専願者はリスニングや現代文の特別な対策は行わず共通テスト模試、プレ模試での受験と、必要があれば過去問演習を行う程度で大丈夫です。

・私立医学部専願者でも、共通テスト利用にてリスニングや現代文の受験予定者は、次回のマーク模試からリスニングや現代文の受験も行いましょう。

▽共通テスト対策のウソの情報、思い込み

①目標点数を決めることが大切だと思いこんでいる

②過去問演習や予想問題を何度も行うことが大切だと思いこんでいる

③共通テストのための特別な対策が必要だと思いこんでいる

④国立医学部では、国社や情報、リスニングが大切だと思いこんでいる

⑤ミス対策として、「見直し」が大切だと思いこんでいる

⑥国立医学部は、共通テスト9割が目標だと思いこんでいる

⑦「〇日で9割とれる共通テスト対策」「裏ワザ」などの特効薬に手を出そうとしている

⑧国立医学部は共通テストさえしっかりとれば合格可能性があると思いこんでいる

▽2025エースアカデミーの国立医学部の合格実績と特徴

▽祝 51名が国立医学部合格！（重複除く）

▼国立医学部一般入試合格 32名

千葉大学 1名/東北大学 1名/北海道大学 1名/長崎大学 1名/金沢大学 1名
岡山大学 1名/群馬大学 1名/浜松医科大学 1名/熊本大学 1名/三重大学 1名
鹿児島大学 2名/愛媛大学 4名/富山大学 3名/福島県立医科大学 2名
札幌医科大学 2名/鳥取大学 2名/福井大学 2名/山形大学 1名/秋田大学 1名
高知大学 1名/宮崎大学 1名/香川大学 1名

▼国立医学部推薦入試合格 19名

筑波大学 2名/秋田大学 3名/福島県立医科大学 2名/群馬大学 1名
神戸大学 1名/信州大学 1名/浜松医科大学 1名/富山大学 1名
長崎大学 1名/高知大学 1名/岐阜大学 1名/香川大学 1名
鳥取大学 1名/札幌医科大学 1名/弘前大学 1名

▼国立医学部合格者の学年別の内訳（一般＋推薦）

現役:25名
1浪:16名
2浪:3名
3浪以上:2名
再受験:5名

▽2025 エースアカデミー 国立医学部の合格者の共通テスト得点率

▼国立医学部一般入試

* 共通テスト90%～:1名合格

千葉大学 1名

* 共通テスト85～90%:5名合格

岡山大学 1名
金沢大学 1名
三重大学 1名
秋田大学 1名
札幌医科大学 1名

* 共通テスト80%～85%:21名

北海道大学 1名	山形大学 1名
東北大学 1名	福島県立医科大学 1名
長崎大学 1名	香川大学 1名
鹿児島大学 1名	鳥取大学 2名
群馬大学 1名	富山大学 3名

浜松医科大学 1名 宮崎大学 1名
福井大学 2名 高知大学 1名
愛媛大学 2名 札幌医科大学 1名

* 共通テスト70%台：5名合格

熊本大学 1名
鹿児島大学 1名
愛媛大学 2名
福島県立医科大学 1名

▼ 国立医学部推薦入試

国立医学部推薦入試：19名合格
85%～：2名
80～85%：10名
75～80%：4名

共通テストなし：3名（筑波2名、高知1名）

▽2025 エースアカデミー 国立医学部の合格者の英数理偏差値

▼ 第3回河合塾全統記述模試（換算も含む）

* 国立医学部の一般入試合格者

偏差値70以上：3名
偏差値65～70：9名
偏差値60～65：15名

偏差値50台 : 5名

*** 国立医学部の推薦入試合格者**

偏差値70以上 : 2名

偏差値65～70 : 4名

偏差値60～65 : 9名

偏差値50台 : 4名

▽2025 エースアカデミー 国立医学部の合格者の分析まとめ

* 共通テスト80%前後以上

* 河合塾記述模試で偏差値60台前半以上

→国立医学部合格の可能性は十分あり

▽国立医学部合格者の国社の点数

2025年に国立医学部に合格された生徒様は51名。

国語70%台以下で国立医学部合格 : 16名

国語60%台以下で国立医学部合格 : 2名

社会70%台以下で国立医学部合格 : 34名

社会60%台以下で国立医学部合格 : 10名

社会50%台以下で国立医学部合格 : 5名

▽共通テスト対策のよくある失敗例

2022年、実際の共通テストの試験本番:多くの受験生の失敗例

共通テストの目標点数を決めることが大切だと思いこんでいる

→合計90%とし、各教科の目標点数を決めて過去問演習や予想問題集を何度も行っていた

→数1A90点、数2B90点、理科85点と目標点数を設定していた

→共通テスト本番の2日目の数1Aで過去最悪レベルの難易度

→大問1からわからず6割もとれない感触で目標点数に全く届かない

→試験中にパニックになる

→目標点数を考えて、次の数2Bで「取り返さないと！」と思い込む

→2022の共通テストでは数2Bも過去最悪レベルの難易度

→数2Bでも全くわからず、さらにパニックになる

→完全に意気消沈する

→次の化学や生物でパニック、メンタルもやられていて解き方がめちゃくちゃになる

→冷静であればそれなりにとれていたはずの理科で、ミスを連発したり、時間配分がめちゃくちゃになる

* 2022の共通テスト結果(平均点、前年との比較)

数1A 38 (-19.7)

数2B 43 (-16.9)

総合 510/900 (-61) : 平均点で前年-6.8%

国立医学部の共通テストボーダーは過去最低

50大学のうち36の国立医学部(7割以上)で、ボーダー70%台に。最高値の東大理三でもボーダー88%。

エースアカデミーでは数学50%、60%台で国立医学部合格多数

* 失敗した原因は??

「目標点数を決めていたこと」

→パニックによる自滅

数学は50~60%でよかったのに、90%を目標としていたことでパニックになり自滅した。

2022年の実際の共通テストの前も

- ・目標点数を決めることが大切だ!
- ・国立医学部は90%目標!
(85%以上ないと合格できない!)
- ・数学は最低でも80%以上ないと合格できない!

と世間ではよく言われていた

→誰も責任をとってくれない!

2022年の共通テストでは、あれだけの変化(平均点総合で-61点)があったのに、

予想はすべて大外れしていた。

あの大きな変化も予想できないのなら、予想なんて何の意味もない。

2022年の共通テストが実際にあったのに、

未だに

「目標点数を決めることが大切だ!」

「国立医学部は80%以上必要だ!」

「過去問演習を何度も行うことが大切だ!」

と言っている人は、一体なにを学んだの??

「2022年の共通テスト本番は、どうすればパニックによる大失敗を防げたの?」

▽共通テスト対策で最もやってはいけないこと

①目標点数を決める

→傾向や難易度の変化があると自滅する
(パニックになって本番自滅する最大の原因)

→得点調整があるとそもそも全く意味がない
(2023年も理科で得点調整)

→これまでの努力をすべて無駄にしたくない人は絶対にやめましょう

②過去問演習や予想問題集を大量に行う

→難易度や点数に固執することで本番の失敗リスクが増える(目標点数と同様)

→演習をしても成績は伸びない

→演習に大量に時間を奪われて基礎が抜ける

→最も基礎が抜けた状態で共通テスト本番を迎える

ネットや世間の誤った情報、思い込みで振り回されると受験生が損をしてしまう

詰んでしまう危険も！

(合格可能性があるのに不合格になってしまう)

▽正しい共通テストの対策について

①全教科の基礎の復習を徹底

②「正しい試験の解き方」の習得が非常に重要

▽共通テストのボーダー・足切りとは？

* 共通テストのボーダーとは？

ボーダーとは、受験者の半数が合格している共通テストの得点率のこと。

例)○○大学: 共通テストボーダー90%

→ 共通テスト90%得点した受験生の約半数が合格できることを示す。

注) 傾斜配点

* ボーダーの注意点

あくまでも予測値であり、絶対的なものではない

- ・結果がわかると2-3%修正されることも
- ・ボーダー以上でも不合格になる
- ・ボーダー未満でも合格する

* 共通テストの足切りとは？

足切りとは、第一次選抜のラインのこと。

足切りにかかると受験自体できないので注意！

* 足切りの注意点

- ・医学部によって設定が異なる
- 倍率が多い
- ・あくまでも予測
- ・実際より厳し目の予測をしていることが多い
- ・足切りにかかると受験自体できない

→ 正確な自己採点を行うことが大切！

* 傾斜配点が重要

大学ごとに、共通テストの配点は異なる

→ボーダー、足切りともに素点ではなく傾斜配点で考えることが非常に重要！

→全国50校すべての傾斜配点を算出して国立医学部の出願校を決めることが非常に重要

▽重要:国立医学部の合格可能性

国立医学部

→共通テスト+模試成績による「判定」

→判定の確率論で合否がほぼ決定

判定の確率論の例(%は実際とは異なります)

A判定:80%前後 合格

E判定:10-20%前後 合格

→完全に判定どおりの結果

→「過去問演習」「個別の大学の対策」「応用問題集」「面接小論文対策」などは合否に関係ない

▽2025年

共通テストの点数と偏差値別の国立医学部の合格判定

*注意:2025年の判定結果であり、2026入試の予測ではありません。
共通テストのボーダーは例年大きく変わります。

▽共通テスト85%以上

共通テスト85%, 偏差値70の場合

A判定:13校
B判定:21校
C判定:6校
D判定:6校
E判定:2校
合格率0%:1校

共通テスト85%, 偏差値65の場合

A判定:なし
B判定:18校
C判定:14校
D判定:5校
E判定:9校
合格率0%:3校

共通テスト85%, 偏差値60の場合

A判定:なし
B判定:なし
C判定:15校
D判定:11校
E判定:11校
合格率0%:12校

共通テスト85%, 偏差値55の場合

A,B,C判定:なし
D判定:14校
E判定:13校
合格率0%:22校

* 共通テスト85%以上の判定と受験校

・英数理の偏差値60前半以上の人
→出願校次第でC判定が15校程度

・共通テストより模試偏差値が重要

・合格率0%の大学も多い

→出願校を間違えると詰むリスクあり

▽共通テスト80%～85%

共通テスト80%, 偏差値70の場合

A判定:なし

B判定:6校

C判定:25校

D判定:9校

E判定:3校

合格率0%:6校

共通テスト80%, 偏差値65の場合

A,B判定:なし

C判定:2校

D判定:28校

E判定:9校

合格率0%:10校

共通テスト80%, 偏差値60の場合

A,B,C判定:なし

D判定:1校

E判定:31校

合格率0%:17校

共通テスト80%, 偏差値55の場合

A,B,C,D判定:なし

E判定:15校

合格率0%:34校

* 共通テスト80%-85%の判定と受験校

・英数理の偏差値65以上ないとD判定以下

・合格率0%の大学が多数

→出願校を間違えると詰んでしまう

・実際は、全国50校のうち

5校程度から選ぶ必要あり

▽共通テスト75%~80%

共通テスト75%, 偏差値70の場合

A,B判定:なし

C判定:1校

D判定:13校

E判定:17校

合格率0%:18校

共通テスト75%, 偏差値65の場合

A,B,C,D判定:なし

E判定:24校

合格率0%:25校

共通テスト75%, 偏差値60の場合

推奨校なし

→国立医学部の合格率0%

* 共通テスト75%-80%の判定と受験校

・偏差値65以下: 合格率はほぼ0%

(二次力がないと詰んでいる状態)

・偏差値65以上: 合格可能性ありだが、

半分の大学は合格率0%

→実際は全国50校から1-2校を選び抜く必要あり

・2025 エースアカデミーでは

共通テスト70%台から9名が国立医学部に合格

▽ 共通テスト70%~75%

共通テスト70%, 偏差値70の場合

A,B,C,D判定: なし

E判定: 2校

合格率0%: 47校

共通テスト70%, 偏差値65の場合

推奨校なし

→国立医学部の合格率0%

* 共通テスト70%-75%の判定と受験校

・偏差値70未満:合格率はほぼ0%
(二次力がないと詰んでいる状態)

・偏差値70以上:合格可能性ありだが、
ほとんどの大学で合格率0%

▽共通テスト65%~70%

共通テスト65%, 偏差値70の場合

推奨校なし

→国立医学部の合格率0%

* 共通テスト60%台の判定と受験校

・偏差値70以上あっても、
国立医学部の合格率はほぼ0%

・私立医学部の受験に集中
または来年度受験に向けて早期の勉強開始が重要!

・記念受験をして時間を無駄にすると来年度の受験も詰んでしまう危険

▽国立医学部の合格可能性で重要なこと

①共通テストも重要だが、二次試験の学力(=模試の成績)が重要

②英数理の学力がある程度ないと、共通テストの国社情報で満点とっても推奨校は出ない
(E判定が出ない)

→ずっと詰んでいる状態の受験生も多い

③共通テストは大学別の傾斜配点が重要

④出願校選びで合否は決まる
(詰む出願をする受験生が多い)

▽国立医学部受験校選びのよくある失敗例

志望校を早めに決めて、大学ごとの「対策」をすることが大切だと思い込んでいる

→夏ごろから志望校の過去問演習をたくさん行う、対策授業を受ける

→上滑りや、演習に大量の時間を奪われる

→基礎の知識が抜ける＋受験本番に失敗するリスクが高くなる

→大量に過去問演習をした結果、その大学に「意味のない思い入れ」ができて固執してしまう

→合格可能性がない「志望校」にこだわって出願してしまい、「詰んでしまう」
(または、足切りにならない国立に出願して記念受験をする)

→全国50大学から正しく出願校を選べば合格可能性があったのに、出願校をいい加減に選んでしまった結果、詰んでしまう

→これまでの努力をすべて無駄にしてしまう！

▽エースアカデミーの国立医学部の推奨校の出し方

全国50校すべての国立医学部から生徒様個別の推奨校を提示(前期後期とも)

NG:自分で選んだ数校の大学しか判定を出さない

①共通テスト終了後、共通テストの自己採点を提出

②各生徒様の共通テストの傾斜配点を全国50校の国公立医学部で計算

③各生徒様の模擬試験の偏差値から一次二次比率を考慮して50の国公立医学部で計算

④全国**50校**すべての国公立医学部の判定を提示

例

A判定:○○大学

B判定:○○大学、○○大学

C判定:○○大学、○○大学...

E判定までの一覧をお送りし、生徒様自身の意向をヒアリング。

⑤指定する判定の中から、第**5**希望まで申請していただく

→塾長が経験・過去のデータなどから総合的に判断して回答。

→受験校を最終決定。